

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要

学校名	姫路市立城乾中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	障害児学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	11	23
生徒数	116	102	89	5	312	

研究の概要

1. 研究主題

少人数などきめの細かな指導と選択履修幅の拡大の推進と地域ボランティアの活用
---------------------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>第1学年 英語 (新しく学習する語学を身につけるためには、聞く、話す、文法を理解することが必要である。そのため、少人数で話す機会を増やすことが基礎学力の向上につながると考えられる。)</p> <p>第2学年 数学 (基礎学力の定着を図る。個々の生徒の興味・関心・能力に対応するため、少人数によるきめの細やかな指導を行う。)</p> <p>第3学年 数学 (基礎学力の定着を図る。個々の生徒の興味・関心・能力に対応するため、少人数によるきめの細やかな指導を行う。)</p> <p>第2・3学年 国語・数学・英語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択履修幅の拡大(生徒の興味・関心や問題意識を重視したカリキュラムの編成を行う。)</li> </ul> <p>全学年 総合的な学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業人の話を聞く会(職業についてのプロ意識、技術等を体験することにより、将来の自分の夢の実現に向けての意識付けにする。)</li> </ul>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p><b>テーマ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業の実施とその効果・課題の明確化。</li> <li>・選択履修幅の拡大の推進(3教科複数コース)</li> <li>・地域ボランティアの活用。</li> </ul> <p><b>仮説</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業の実施により生徒一人一人の実態把握が容易になり、つまずきの発見やきめの細やかな指導ができる。</li> <li>・生徒のニーズに合った講座を開設することにより、学習意欲が増す。</li> <li>・職業人の話を聞く会を実施することによって、個々の進路の意識付けが図れる。</li> </ul> <p><b>研究内容・方法</b></p> <p><b>少人数などきめの細かな指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年の英語、第2,3学年の数学において、全クラス全授業で少人数(2学習集団)を実施。</li> <li>・学習集団は名簿順に均等にする。</li> <li>・パソコンを使った学習方法の研究。</li> <li>・スピーキング練習時間(英語)の増加。</li> </ul> <p><b>選択履修幅の拡大の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国、数、英を第2,3学年とも各3講座ずつ開設。</li> </ul>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各講座15名を限度に定員を設定。</li> </ul> <p><b>職業人の話を聞く会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間に15講座(職種)を持ち、各講座とも実技、講義を実施した。</li> <li>・各講座とも事前に講師と連絡を取り、実施内容を確認した。</li> </ul>
--	---

平成15年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数での指導方法の改善と工夫。</li> <li>・選択履修幅拡大の充実</li> <li>・地域ボランティアの日常的な活用の推進。</li> </ul> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の課題を基にした指導方法の工夫改善によって、生徒一人一人の学習意欲を高め、基礎学力の定着が図れる。</li> <li>・選択履修幅を更に拡大することによって、学ぶ意欲と共に基礎学力の定着が図れる。</li> <li>・職業人の話を聞く会の講師との日常的なつながり(選択授業の講師等)によって、地域ボランティア活用の拡大が図れる。</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <p><b>少人数などきめの細かな指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の反省を基に、集団の編成方法を工夫する。</li> <li>・生徒に実施したアンケートや自己点検表等を基にして指導方法の改善を図る。</li> </ul> <p><b>選択履修幅の拡大の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択講座に「情報」(技家)を加えることで、パソコン等の利用の充実を図る。</li> <li>・教科・コース共開設数を増やす。</li> </ul> <p><b>総合的な学習・職業人の話を聞く会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業人の話を聞く会の講師陣を総合的な学習や選択教科の指導者として迎え、授業の充実を図る。</li> </ul>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業を通して、生徒一人一人の立場に立った指導方法の確立と教材の開発。</li> <li>・選択履修幅の拡大と生徒の自己選択力・自己評価力の育成(5教科複数コース)。</li> <li>・地域ボランティアによる授業参加の推進。</li> </ul> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業の確立により、生徒一人一人が持っているすぐれた能力を引き出すことができる。</li> <li>・生徒一人一人の興味・関心・問題意識を明確にし、教科を選択させることによって、問題解決能力がつき発展的学習につなぐことができる。</li> <li>・地域ボランティアの授業参加を通して、特色ある学校作りが展開できる。</li> </ul> <p>研究内容・方法</p> <p><b>少人数などきめの細かな指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年間にわたる指導方法の改善や充実によって、生徒一人一人の能力を伸ばす教材の開発を進める。</li> </ul> <p><b>選択履修幅の拡大の推進・職業人の話を聞く会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員・地域ボランティア等を最大限活用して、生徒一人一人のニーズに対応できる選択教科を開設する。</li> <li>・将来の進路や生き方について、自分で切り拓いていく力をつける。</li> </ul>
--------	--

(3)研究体制

<p>新学習システム推進委員会(構成:校長、教頭、教務、システム推進教員、各学年主任)</p> <p>教科部会(数、英担当教諭)</p> <p>学力向上フロンティア事業推進委員会(構成:校長、教頭、教務、システム推進教員、各学年主任、生徒会担当)</p>
---

## 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

### 1. 研究の成果

#### 成果

##### 少人数などきめの細かな指導

- ・スピーキング練習時間（英語）が増加し、生徒の英会話への意欲が高まった。
- ・一人一人の意見が言いやすく、発表回数が増えた。
- ・パソコンを使い、フィードバック学習（数学）を取り入れ、個々の生徒の実態に合わせた指導ができた。
- ・生徒一人一人に話しかける機会が増え、生徒理解が深まってきている。
- ・生徒が授業や学習に対する主体性を高め、学習中の教師による指導はもとより、生徒同士の教え合いや活発に交流し合う姿が多く見られ、学力の定着を深めるとともに、人間関係の醸成にもつながっている。
- ・教科担当で教材解釈や指導法などについての検討が充実し、指導力の向上が図られている。

##### 選択履修幅の拡大

- ・個々の生徒の課題や希望を重視した講座開設やカリキュラム編成によって、問題意識をもって授業に取り組む生徒が増えた。
- ・教え合ったり、グループで協力して考え、説明し合う場面が増えた。
- ・漢字検定、英語検定の受検者が例年より増えている。
- ・情報講座の開設によって、他の授業でもパソコンを利用した授業が増えた。

##### 総合的な学習・職業人の話を聞く会

###### 【総合】

- ・『基礎学習』の充実は、生徒・教師ともに新鮮であり、互いに新しい発見をしながら充実できた。また、外部講師による講演会も生徒の発達段階に合わせ基礎講座・応用講座と分け実施したのは好評だった。
- ・校区に出かけ、アンケートや資料収集をする中で、地域の人々との対話が増した。
- ・学年発表会に校区内の小学生を招き、小・中の連携の一役を担った。

###### 【職業人】

- ・実技や実演を増やしたため、生徒の関心が高まった。
- ・職業についての考えが深まった生徒が増えた。
- ・設定時間を増やしたため（60 90分）内容が昨年より充実したものになった。

### 2. 今後の課題

#### 課題

##### 少人数などきめの細かな指導

- ・生徒一人一人に応じた指導方法の工夫、教材・教具の開発
- ・生徒の主体的な学習を支援するための学習環境を整え、学習形態の工夫（机の配置など）
- ・視聴覚機器やパソコンを利用した授業の工夫。
- ・生徒の理解度を把握するため、情報交換の場をより多く持つようにする。
- ・授業の進度差や、評価方法など教師間の調整

##### 選択履修幅の拡大

- ・国・学・英の講座に限定しているため、教科外の教師も講座を担当することになり、教材作成に苦労している。
- ・時間割編成が複雑になり、出張や突発的な事象に対応できないときがある。

##### 総合的な学習・職業人の話を聞く会

###### 【総合】

- ・各時間に行う担当者の評価と、学級担任が行う最終評価との連動がうまくいかなかった。今後は、各教師の評価を集約していく手だてを工夫・検討していく必要がある。
- ・『基礎学習』は今年度は教師主体であったが、生徒同士が指導する体制を考えたい。
- ・地域の人々との連携の強化。

###### 【職業人】

- ・実技が増えたとはいえ、まだまだ受け身の姿勢が見られる。今後は事前指導（職業指導）をさらに充実していかなければならない。
- ・校区内の講師のさらなる発掘と保護者に対する啓発の強化。
- ・実際に職業に就いた卒業生に対する追跡調査。

学力把握のための学校としての取組

各単元毎に、単元内容の定着度をはかるため、基本的な内容をテストし、習熟度や本人の希望を取り入れ、復習・発展講座を実施。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

**授業に生かすパソコン講座の取り組み**

8月上旬 夏期職員研修 第1回 基本的な使い方  
第2回 写真等の活用  
第3回 動きのあるパワーポイント

**中播磨学力向上フロンティア事業発表会**

日時 平成15年11月12日(水)  
場所 本校・姫路文学館  
対象 中播磨各中学校  
内容 学力向上フロンティア事業 第2年次 中間発表会

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                           |                            |          |             |
|----------------------|---------------------------|----------------------------|----------|-------------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校                | 14年度からの継続校                 |          |             |
| 【学校規模】               | 3学級以下<br>7～9学級<br>13～15学級 | 4～6学級<br>10～12学級<br>16学級以上 |          |             |
| 【指導体制】               | 少人数指導<br>その他              | T・Tによる指導                   |          |             |
| 【研究教科】               | 国語<br>外国語<br>保健体育         | 社会<br>音楽<br>その他            | 数学<br>美術 | 理科<br>技術・家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有                         | 無                          |          |             |